

北海道地方新広域道路交通ビジョン(案)の中間取りまとめ 概要(骨子)

■地域の将来像

(1) 北海道の現状と課題

①北海道の概要

- 北海道は、日本海・太平洋・オホーツクの3つの海に囲われた島国
- 国土面積の5分の1以上を占める広大な土地
- 美しく明瞭な四季の風景があり、夏は涼涼、冬は積雪寒冷な気候

②北海道の強み

i. 日本の食料供給基地

- 北海道の食料自給率・農業生産額は全国1位であり、日本の食料供給基地

ii. 世界水準の観光地

- 北海道の観光入込客数は平成29年に過去最大である5,610万人を記録
- 北海道は、国内外より高い人気を集める観光地。外国人来道者数は過去10年で約4倍

③北海道の課題

i. 急速な人口減少と高齢化

- 北海道では全国より10年程先行して人口減少が進んでいる
- 道内の中心都市である札幌市においても将来的には人口減少が危惧
- 札幌の都市力を生かし諸外国を含む他地域との交流の発展が必要

ii. 広域分散型社会

- 広域分散型社会を形成する北海道では、地方部の第1次産業(農業・漁業)の「生産空間」での、人口減少、高齢化による将来の無人化が危惧
- 集落機能の低下、生活交通の確保、高齢者の生活支援等の課題が顕在化

iii. 災害リスクの高まり

- 近年、大規模地震、火山災害、台風・豪雨など災害リスクが増加

iv. 冬期の交通障害

- 冬期における渋滞や、豪雪、雪崩、吹雪等による交通障害が課題

④ICT技術の進展

- 近年、IoT・ビッグデータ等の技術革新が発展
- 北海道においても、インフラ整備や、交通サービスなどに様々な新技術を検討
- 「生産空間」における自動運転サービスや新しいモビリティの活用等も着目され、新たな技術連携に期待

(2) 地域の将来像

①「食料供給基地」としての持続的発展

- ・北海道の「食」の付加価値化及び国際競争力強化のための物流ネットワークの形成

②「観光先進国」実現をリードする世界水準の観光地形成

- ・主要地点から観光地間のネットワーク強化や観光周遊性の強化

③「北海道型地域構造」の保持・形成

- ・地域社会構造を保持・形成するための道路ネットワーク形成や交通結節点機能の強化

④「大規模災害」への備え

- ・代替性の確保や災害時におけるネットワークの強化

⑤高次都市機能の最大化

- ・札幌都心部の機能強化、北海道全域とつながる広域的な交流・連携機能の確保

⑥ICT交通マネジメントの推進

- ・ビッグデータ活用方策の検討、ICTモビリティサービスの強化



■広域的な交通の課題と取り組み

(1) 広域的な交通の課題と取り組み

①広域道路網の現状と課題

- 北海道の高規格幹線道路の供用率は約61%と全国(83%)に比べ遅れている状況
- 暫定2車線区間も多く存在し、走行性や安全性に課題
- 直轄国道上の国際海上コンテナ(40ft背高)車の通行支障区間の存在も課題
- 札幌都市圏等の市街地部では慢性的な渋滞により、経済的損失が発生
- 観光地周辺での観光期の渋滞対策が急務

②物流の現状と課題

- 北海道の国際海上コンテナ取扱量は年々増加傾向
- 国際拠点港湾や重要港湾と高規格幹線道路の接続について、未開通区間が存在
- 農水産物の輸出促進に向け、道内6港湾の連携計画策定等の取組が進捗
- 鉄道貨物駅のネットワーク接続についても引き続き道路管理者間での連携が必要

③人流の現状と課題

- 近年の外国人観光客の急増に伴い、新千歳空港においても国際線旅客数が増加
- 新千歳空港の機能強化や、道内各空港の有効活用・連携推進が必要
- 北海道新幹線は2030年度末に新函館北斗～札幌間の開業が予定
- 新幹線開業を見据え、札幌駅交流拠点の再整備や都心アクセス強化の検討が進捗

④災害への対応

- 道路密度の低い北海道では、通行止め時の大幅な迂回による社会影響が発生
- 豪雨に伴う土砂災害や雪害等の脆弱区間を代替するネットワーク形成が必要
- 津波浸水や火山噴火等の大規模災害への対応も急務

(2) 技術革新を踏まえた新たな取組

①ICT、交通ビッグデータ等

- ETC2.0を活用した事故危険区間の特定やピンポイント事故対策を実施
- 中富良野地区では、観光促進のためWi-Fiパケットセンサーを活用した調査やリアルタイム経路誘導を実施

②自動運転

- 北海道には全国最多の28のテストコースが集積し、多様な試験モードの提供が可能
- 道の駅「コスモール大樹」では、過疎地域でのモビリティ確保に向けた自動運転サービスの実証実験を実施

■広域的な道路交通の基本方針

(1) 広域道路ネットワーク

①「食料供給基地」としての持続的発展を目指す物流ネットワークの強化

- 物流拠点を連絡する効率的かつ安全な道路NW整備推進

②「観光先進国」実現をリードする世界水準の観光地形成に向けた周遊性の向上

- 空港・新幹線駅等と観光地間のNW強化
- 観光地間の周遊性を強化する取組の推進

③「北海道型地域構造」を保持・形成するための道路ネットワークの強化

- 圏域中心都市間の高規格幹線道路の整備
- 交通結節点機能を有する地域拠点等との連絡性確保

④切迫する「大規模災害」へ備えるネットワーク機能や代替性の確保

- 災害リスクに対応した道路NWの信頼性・代替性強化

(2) 交通防災拠点

①札幌都心部と北海道全域をつなげる広域的な交流・連携機能の確保

- 北海道新幹線札幌延伸を見据え、札幌駅交流拠点等のまちづくりと連携したモダリティネットワークの強化

②地方部の「生産空間」における日常生活に必要な拠点機能の確保

- 地方部の「生産空間」における交通結節点や住民サービス等の利便性向上のための「道の駅」活用

③物流の効率化を先導する輸送拠点の構築

- 物流効率化のための隊列走行の実現、隊列走行拠点としてのインランドデポの構築推進

(3) ICT交通マネジメント

①広域的な道路ネットワークを中心とした、平常時や災害時を含めたデータ収集・利活用の強化

- 交通ビッグデータ取得方策の検討、プラットフォーム構築
- データ活用方策の検討、各種施策への反映

②他の交通機関とのデータ連携によるモビリティサービスの強化

- 自動運転を活用した移動システムの構築
- データプラットフォームの利活用方策を検討

③主要な都市部等における面的な交通マネジメントの強化

- ETC2.0やAI、自動運転を活用した共通情報基盤の構築

④ICT等の活用に向けた産学官連携による推進体制の強化

- 自動運転の実証実験の実施支援